# 大学美術教育学会 会報 No.27

2012 年 9 月 20 日発行

編集・発行　大学美術教育学会総務局広報室
理 事 長　大嶋　彰（滋賀大学）
総務局長　相田隆司（東京学芸大学）
事務部長　佐藤聡史
事 務 部　〒 389-0406　長野県東御市八重原 2912
TEL : 090-2560-5998 /FAX: 0268-61-6162
mail: daibibumon@po15.ueda.ne.jp


## 理事長就任のご挨拶

**理事長　大嶋　彰（滋賀大学）**

この度は大学美術教育学会理事長への就任要請をいただき、これまでさまざまな形で学ばせていただいたことへのご恩に報いるためにも、微力ではありますがお引き受けすることにいたしました。藤江充前理事長の後任を務めさせていただくのはまことに荷の重い話ですが、橋本光明前々理事長が作られた新しい体制を引継ぎながら、地区全国理事の方々をはじめ会員諸氏のご協力のもとに、美術教育の多難な時期を少しでも前進するよう務めて参りたいと思います。

また、今年度執行部新役員として新関伸也副理事長、相田隆司総務局長、芳賀正之学会総務部長、安東恭一郎国際交流委員長の各氏に就任いただき、岩村伸一副理事長（学会誌委員長）、総務局、事務部とともに、まずは緊密な組織体制を目指していきたいと思います。そして、他学会との連携、韓国との研究交流、学会誌編集作業、学会誌のアーカイブ化等々、当面の課題に取り組みたいと思います。

さて私は現在、滋賀大学で絵画を担当しておりますが、本学会の会員には私のような教科専門の立場で入会しておられる方も多いと思います。日本教育大学協会全国美術部門の研究組織として出発した本学会は、幅広い専門を擁するという点、美術と教育における唯一の学会だと思います。このことが本学会の優れた独自性にもなっており、同時に組織運営の難しさにも繋がっています。しかし、今日の教育界における大きな課題、例えば教員免許制度の修士レベル化の課題などをみても、実践的な指導力向上に資するため「学習科学等実践的な教育学研究の推進」が求められていることから、教科と教職を架橋する新たな挑戦が始まっています。そのような意味では、ものや表現に関わる美術教育は、学習科学としても具体的、質的に可視化、理論化できる可能性に満ちた教科であると思われます。先輩諸氏によって築き上げられてきた美術教育の理念が、現実の困難さの中に埋没させられることを防ぐためにも、多様な専門や立場を抱える本学会の役割は決して小さくないのではないかと考えています。

また本学会は、平成 22 年東京大会において初めて私立大学の武蔵野美術大学で研究発表大会が開催され、開かれた学会として新たな一歩を踏み出しました。昨年度は、東日本大震災直後にもかかわらず宮城教育大学の懸命なる熱意によって大会が開催され、本学会の底力を感じさせていただきました。今後とも会員の皆様のご協力のもとに、本学会独自の研究と社会的な役割の進展を願って、就任のご挨拶といたします。

## H24 年度就任の新役員紹介

上から役職名、氏名、任期、所属、教育・研究分野

理事長

大嶋　彰（おおしま・あきら）
平成 24-25 年度
滋賀大学教育学部
絵画

副代表 ( 副 )

新関伸也（にいぜき・しんや）
平成 24-25 年度
滋賀大学教育学部
美術科教育

特別委員

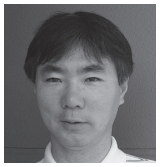
藤江　充（ふじえ・みつる）
平成 24 年度
愛知教育大学教育学部
美学、美術教育学

総務局長

相田隆司（あいだ・たかし）
平成 24-25 年度
東京学芸大学教育学部
美術科教育

総務局学会総務部長

芳賀正之（はが・まさゆき）
平成 24-25 年度
静岡大学教育学部
美術科教育



総務局

新野貴則（にいの・たかのり）
平成 24-25 年度
山梨大学大学院教育学研究科
図画工作科・美術科教育

総務局

山田一美（やまだ・かずみ）
平成 24-25 年度
東京学芸大学教育学部
美術科教育学

**＜地区全国理事＞**

〔北海道〕地区全国理事

佐々木　宰（ささき・つかさ）
平成 24-25 年度
北海道教育大学釧路校
美術教育

〔東　北〕地区全国理事

遠藤敏明（えんどう・としあき）
平成 24-25 年度
秋田大学　教育文化学部
美術教育、木材工芸

〔関　東〕地区全国理事

片口直樹（かたぐち・なおき）
平成 24-25 年度
茨城大学教育学部
絵画

〔北　陸〕地区全国理事

江藤　望（えとう・のぞみ）
平成 24-25 年度
金沢大学人間社会学域学校教育学類
彫刻

〔東　海〕地区全国理事

白井嘉尚（しらい・よしひさ）
平成 24-25 年度
静岡大学教育学部
絵画

〔近　畿〕地区全国理事

初田　隆（はつだ・たかし）
平成 24-25 年度
兵庫教育大学教育学部
絵画・美術教育

〔四　国〕地区全国理事

古草敦史（ふるくさ・あつし）
平成 24-25 年度
香川大学教育学部
絵画

〔中　国〕地区全国理事

橋ヶ谷佳正（はしがや・よしまさ）
平成 24-25 年度
岡山大学大学院教育学研究科美術教育講座
視覚伝達デザイン、美術教育

〔九　州〕地区全国理事

宮田洋平（みやた・ようへい）
平成 24-25 年度
福岡教育大学教育学部
金属工芸

私立大学代表理事

三澤一実（みさわ・かずみ）
平成 24-25 年度
武蔵野美術大学教職課程研究室
美術教育・鑑賞教育

学会大会運営委員

村田利裕（むらた・としひろ）
平成 24-25 年度
京都教育大学教育学部
美術科教育

監　事

小澤基弘（こざわ・もとひろ）
平成 24-25 年度
埼玉大学教育学部
絵画

## 平成 24 年度　役員・各種委員会委員　氏名

理 事 長　　大嶋　彰（滋賀大学 24-25）
副理事長　　(正)岩村伸一（京都教育大学 23-24　学会誌委員長）（副)新関伸也（滋賀大学 24-25）
特別理事　　藤江　充（愛知教育大学 24）
＜総務局＞
総務局長　　相田隆司（東京学芸大学 24-25）
学会総務部長　芳賀正之 ( 静岡大学 24-25）
　　新野貴則（山梨大学 24-25）大成哲雄（聖徳大学 24-25）山田一美 ( 東京学芸大学 24-25）
　　小泉　薫 ( お茶の水女子大附属中学校 21-22,23-24）竹内とも子 ( 千代田区立九段小学校 21-22,23-24)
＜事務部＞
事務部長　　佐藤聡史（民間 21.22.23.24）

□地区全国理事
〔北海道〕　阿部宏行（北海道教育大学岩見沢校 23-24）　佐々木　宰（北海道教育大学釧路校 24-25）
〔東　北〕　降籏　孝（山形大学 23-24）　遠藤敏明（秋田大学 24-25）
〔関　東〕　加藤 修（千葉大学 23-24）　片口直樹（茨城大学 24-25）
〔北　陸〕　宮崎光二（福井大学 23-24）　江藤　望（金沢大学 24-25）
〔東　海〕　竹井　史（愛知教育大学大学 22-23-24）　白井嘉尚（静岡大学 24-25）
〔近　畿〕　宇田秀士（奈良教育大学 23-24）　初田　隆（兵庫教育大学 24-25）
〔四　国〕　山田芳明（鳴門教育大学 23-24）　古草敦史（香川大学 24-25）
〔中　国〕　蜂谷昌之（広島大学 23-24）　橋ヶ谷佳正（岡山大学 24-25）
〔九　州〕　冨田礼志（大分大学 23-24）　宮田洋平（福岡教育大学 24-25）

□私学代表理事　　山中　隆（華頂短期大学 23-24）　三澤一実（武蔵野美術大学 24-25）
□学会大会運営委員　冨田礼志（大分大学 23-24）　村田利裕（京都教育大学 24-25）
□監　事　　増田金吾（東京学芸大学 23-24）　　小澤基弘（埼玉大学 24-25）

□学会各種委員会
(1) 学会誌委員会（H24 年度 18 名）
委員長　岩村伸一（京都教育大学 23-24）
副委員長　三澤一実（武蔵野美術大学 21-22,23-24）　副委員長 〔総務局〕芳賀正之 ( 静岡大学 24-25）
委員　15 名　奥村高明（聖徳大学 23-24）　小野文子（信州大学 23-24）　後藤雅宣（千葉大学 23-24）
谷口淳一（京都教育大学 23-24）　本村健太（岩手大学 23-24）　鷲山　靖（金沢大学 23-24)）　新関伸也（滋賀大学 24）
石崎和宏（筑波大学 24-25）　斉藤泰嘉（筑波大学　24-25）　竹井　史（愛知教育大学　24-25）
永守基樹（和歌山大学　24-25）　松本健義 ( 上越教育大学 24-25)　　山野てるひ（京都女子大学短期大学部　24-25）
小野康男（横浜国立大学 24-25）　新野貴則（山梨大学 24-25・総務局兼任）

(2) 国際交流委員会
委員長　　安東恭一郎（香川大学 24-25）
副委員長　煤孫康二（岩手大学 24-25）　〔総務局〕竹内とも子（千代田区立九段小学校 24-25）
委員　7 名　池内慈朗（埼玉大学 24-25）鈴木幹雄（神戸大学 24-25）中村和世（広島大学 24-25）
長田謙一　（首都大学東京 24-25）福田隆眞（山口大学 24-25）甲田小知代 ( 新潟市立潟東中学校 24-25)
結城孝雄（東京家政大 24-25）

# 大学美術教育学会　平成 23 年度事業報告

■平成 23 年度大学美術教育学会　事業報告

（平成 23 年 3 月 31 日）「学会会報・第 24 号」、発送 H23.5.7（大会予告）

〔平成 23 年度〕

| | |
|---|---|
| 6 月 16 日（木） | 大学美術教育学会「東京大会案内（第 1 次）」 |
| 6 月 | 平成 21 年度会計監査（西村監事・大宮監事） |
| 6 月 19 日（日） | 拡大総務局会・第 1 回拡大理事会各種委員会（学会誌委員会・国際交流委員会・次期理事長選考委員会（東京文化会館：中会議室 No.1, 小会議室 No.1，小会議室 No.2, 応接室 No.1） |
| 7 月 31 日（日） | 大学美術教育学会「宮城大会」研究発表（口頭）・ポスター発表・ポスター展示の「申込」締切、投稿文登録「申込」の締切 |
| 8 月 19 日（金） | 研究発表（口頭）・ポスター発表「要旨提出」締切 |
| 8 月 20 日（土） | 「学会会報・25 号」、「宮城大会案内（第 2 次）」発送 |
| 9 月 11 日（日） | 「投稿論文」締切（消印有効） |
| 9 月 16 日（金） | 学会運営委員会（東京：TKP 会議センター） |
| 9 月 10 日（土） | 造形芸術教育協議会 ( 滋賀大学 ) |
| 9 月 23 日（金） | 拡大総務局会、第 2 回拡大理事会、第 2 回次期理事長選考委員会 各種委員会（学会誌委員会・国際交流委員会）（仙台：宮城教育大学） |
| 9 月 24 日（土） | 第 50 回大学美術教育学会「宮城大会」開催（仙台：宮城教育大学）学会総会、シンポジウム、研究発表（口頭）、ポスター発表・ポスター展示 学会・部門合同懇親会 |
| 9 月 25 日（日 | 研究発表、学会総会、閉会式 大会開催大学引継ぎ（宮城教育大学—大分大学） |
| 10 月 29 日（土） | 学会誌委員会 |
| 12 月 20 日（火） | 「投稿論文の最終提出」提出締切（必着）、学会誌編集作業開始 |

（平成 24 年）

| | |
|---|---|
| 1 月 28 日（土） | 第 3 回次期理事長選考委員会、学会運営委員会（東京文化会館） |
| 1 月末 | 投稿論文掲載者による掲載負担金納入 |
| 2 月末 | 投稿論文（校了 ※厳守） |
| 3 月 13 日（火） | 拡大総務局会、第 3 回拡大理事会、各種委員会（学会誌委員会･国際交流委員会）（東京文化会館） |
| 3 月 31 日 | 「学会誌・第 44 号」発行・送付「学会会報・第 26 号」（大分大会予告）発行<br>「学会員名簿」作成・送付 |

以上

# 大学美術教育学会　平成 24 年度事業計画（案）

■平成 24 年度学会事業計画（案）
（平成 23 年 3 月 31 日）「学会会報・第 26 号」発行・発送（「大分大会案内」予告）
「学会会員名簿 2011」、発行・発送
〔平成 24 年度〕

| | |
|---|---|
| 6 月 27 日 | 「大分大会案内（第 1 次）」<br>研究発表（口頭）・ポスター発表・ポスター展示・投稿論文登録の「申込案内」 |
| 6 月 | 平成 23 年度会計監査（大宮監事・増田監事） |
| 6 月 10 日 | 学会運営委員会（東京文化会館） |
| 7 月 31 日（金） | 大学美術教育学会「大分大会」研究発表（口頭）・ポスター発表・ポスター展示の「申込」締切、投稿論文登録「申込」の締切 |
| 8 月 19 日（金） | 研究発表（口頭）・ポスター発表「要旨提出」締切 |
| 8 月 20 日 | 「学会会報・27 号」（「大分大会案内（第 2 次）」最終）（予定） |
| | |
| 9 月　9 日（日） | 「投稿論文」締切（消印有効） |
| 9 月 16 日（日） | 学会運営委員会（会場、予定） |
| 10 月 19 日（金） | 大会前日諸会議（拡大総務局会、第 1 回拡大理事会、各種委員会（学会誌委員会・国際交流委員会<br>大分市：大分大学 ) |
| 10 月 20 日（土） | 第 51 回大学美術教育学会「大分大会」開催（大分市:大分大学）学会総会、シンポジウム、研究発表（口頭）、ポスター発表・ポスター展示 学会・部門合同懇親会 |
| 10 月 21 日（日） | 研究発表、学会総会、閉会式 大会開催大学引継ぎ（大分大学 - 京都教育大学） |
| 10 月 27 日（土） | 学会誌委員会 |
| 12 月 | 造形芸術教育協議会関係 ( 三学会連携行事又は協議 ) |
| 12 月 18 日（火） | 「投稿論文の最終提出」提出締切（必着）、学会誌編集作業開始 |

（平成 25 年）

| | |
|---|---|
| 1 月 26 日（土） | 学会運営委員会（会場：東京 未定） |
| 1 月末 | 投稿論文掲載者による掲載負担金納入 |
| 2 月末 | 投稿論文（校了 ※厳守） |
| 3 月 13 日（水）又は 14 日（木）、又は中旬 | |
| | 拡大総務局会、第 2 回拡大理事会、各種委員会（学会誌委員会・国際交流委員会）（東京文化会館） |
| 3 月中旬 | 「学会誌・第 45 号」発行・郵送「学会会報・第 28 号」（京都大会予告）発行 |
| 3 月末日 | ( 次年度組織・運営に関する執行部・各役員の引き継ぎ ) |

※ 4 月以降、新組織で運営する
以上

## 平成 23 年度　大学美術教育学会　決算

| | 費目 | 平成 23 年度予算 | 平成 23 年度決算 | 増減 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 前年度繰越 | 1,521,286 | 1,521,286 | 0 | |
| 年会費 | 会費収入 | 3,350,000 | 2,750,000 | -600,000 | |
| 掲載負担金 | 学会誌掲載負担金 | 1,500,000 | 1,830,000 | 330,000 | |
| その他収入 | 雑収入 | 0 | 12,000 | 12,000 | |
| | 収入合計 | 6,371,286 | 6,113,286 | | |
| 補助金 | 研究大会補助金 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 印刷製本費 | 大会概要集刊行費 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| | 学会誌刊行費 | 2,200,000 | 2,350,000 | 150,000 | |
| | 学会会報刊行費 | 90,000 | 137,300 | 47,300 | |
| | 学会通信刊行費 | 50,000 | 0 | -50,000 | |
| | 会員名簿刊行費 | 250,000 | 178,500 | -71,500 | |
| | 封筒その他印刷費 | 40,000 | 51,450 | 11,450 | |
| | 大会案内印刷費 | 50,000 | 0 | -50,000 | |
| 運営費 | 理事会費 | 300,000 | 392,840 | 92,840 | |
| | 学会誌委員会費 | 120,000 | 140,020 | 20,020 | |
| | その他委員会費 | 100,000 | 38,300 | -61,700 | |
| | 会議費 | 50,000 | 62,400 | 12,400 | |
| | 交通費 | 450,000 | 0 | -450,000 | |
| 事務経費 | 通信費 | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| | 郵送費 | 370,000 | 274,740 | -95,260 | |
| | 事務費 | 30,000 | 5,600 | -24,400 | |
| | 支払手数料 | 5,000 | 2,100 | -2,900 | |
| | 雑費 | 30,000 | 0 | -30,000 | |
| 予備費 | 予備費 | 1,226,286 | 0 | -1,226,286 | |
| 委託費 | 事務部業務委託費 | 500,000 | 455,000 | -45,000 | |
| | 次年度繰越 | | 1,515,036 | | |
| | 合計 | 6,371,286 | 6,113,286 | | |

## 平成 24 年度　大学美術教育学会　予算（案）

| | 費目 | 平成 23 年度予算 | 平成 24 年度予算 | 増減 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 前年度繰越 | 1,521,286 | 1,515,036 | -6,250 | * |
| 年会費 | 会費収入 | 3,350,000 | 3,250,000 | -100,000 | |
| 年会費 | 未納会費 | 0 | 500,000 | 500,000 | |
| 掲載負担金 | 学会誌掲載負担金 | 1,500,000 | 1,800,000 | 0 | |
| | 収入合計 | 6,371,286 | 7,065,036 | 693,750 | |
| 補助金 | 研究大会補助金 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 印刷製本費 | 大会概要集刊行費 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| | 学会誌刊行費 | 2,200,000 | 2,500,000 | 300,000 | |
| | 学会会報刊行費 | 90,000 | 0 | -90,000 | 廃止 |
| | 学会通信刊行費 | 50,000 | 0 | -50,000 | 廃止 |
| | 学会会報通信刊行費 | 0 | 200,000 | 200,000 | 新規 |
| | 会員名簿刊行費 | 250,000 | 0 | -250,000 | |
| | 封筒その他印刷費 | 40,000 | 40,000 | 0 | |
| | 大会案内印刷費 | 50,000 | 0 | -50,000 | 廃止 |
| 運営費 | 理事会費 | 300,000 | 0 | -300,000 | 廃止 |
| | その他委員会費 | 100,000 | 0 | -100,000 | 廃止 |
| | 運営委員会費 | 0 | 250,000 | 250,000 | 新規 |
| | 学会誌委員会費 | 120,000 | 150,000 | 30,000 | |
| | 国際交流委員会費 | 0 | 150,000 | 150,000 | 新規 |
| | 拡大理事会費 | 0 | 300,000 | 300,000 | 新規 |
| | 交通費 | 450,000 | 0 | -450,000 | 廃止 |
| | 会議費 | 50,000 | 100,000 | 50,000 | |
| 事務経費 | 通信費 | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| | 郵送費 | 370,000 | 500,000 | 130,000 | |
| | 事務費 | 30,000 | 10,000 | -20,000 | |
| | 支払手数料 | 5,000 | 10,000 | 5,000 | |
| | サーバー使用料 | 0 | 30,000 | 30,000 | 新規 |
| | 雑費 | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| 予備費 | 予備費 | 1,226,286 | 1,555,036 | 328,750 | |
| 委託費 | HP 製作費 | 0 | 100,000 | 100,000 | 新規 |
| | HP 管理費 | 0 | 60,000 | 60,000 | 新規 |
| | 事務部業務委託費 | 500,000 | 550,000 | 50,000 | |
| | 合計 | 6,371,286 | 7,065,036 | | |

## 平成 24 年度学会誌委員会事業計画について

学会誌委員会委員長　岩村伸一（京都教育大学）

ほんのこの前、学会誌第 44 号をなんとか年度内に刊行できたと胸を撫で下ろしたところなのですが、もう、第 45 号に関する事柄が始まってしまいました。本年度もよろしくお願いいたします。第 1 回運営委員会（6 月 10 日開催）と第 1 回学会誌委員会（6 月 17 日開催）において、以下の平成 24 年度学会誌委員会事業計画が決定・承認されています。

【平成 24 年度　事業計画】

| | |
|---|---|
| 6 月 17 日（日） | 第 1 回学会誌委員会 |
| 7 月 29 日（日） | 投稿論文「登録申込」締切（必着）<br>受理通知・執筆要領返信（受付後順次返信） |
| 8 月～ | 査読者委嘱交渉 |
| 9 月 9 日（日） | 投稿論文締切（消印有効） |
| 9 月中旬～ 10 月中旬 | 論文査読 |
| 10 月 19 日（金） | 第 2 回学会誌委員会（大分大会前日） |
| 10 月 27 日（土） | 第 3 回学会誌委員会（掲載可否の審議）<br>順次査読結果通知 |
| 12 月 18 日（火） | 原稿提出締切（必着）修正論文提出締切（必着）最終判定<br>編集作業開始、データ入校、順次校正 |
| 1 月末 | 掲載負担金納入 |
| 2 月末 | 校了 |
| 3 月中旬 | 第 4 回学会誌委員会 |
| 3 月 20 日 | 「学会誌第 45 号」発行、郵送 |

昨年度とほぼ同様のスケジュールですが、今回から投稿論文登録の方法が変更され、学会 HP の受付フォームから行うこととなっています。おまちがえのないように・・・。以前にも述べましたが、大学美術教育学会が日本学術会議協力学術研究団体として社会的責任も大きくなったことを受け、本学会誌も一層の充実が望まれています。それを受け、学会誌委員会ではこの学会誌を新しい時代に対応させていくため、論文フォーマットの見直しに着手したところです。なんとか大分大会には新しいフォーマットを示せるようにしたいと考えています。学会誌は変化の重要な時期にあるのだと思います。会員の皆様には、度重なる変更等でご迷惑をかけることと成るかも知れません。お許しいただき、重ねてご協力をお願いいたします。

## 国際交流委員会委員長着任挨拶

国際交流委員会委員長　安東恭一郎（香川大学）

1　国際交流委員会・これまでの取り組み

本年度から国際交流委員会委員長を担当することになりました。よろしくお願いします。

大学美術教育学会・国際交流委員会の発足は 2003 年 10 月であり，委員会活動が始まってからまだ 10 年ほどの若い委員会です。

初代委員長の元三重大学浜本昌宏先生は「欧米一辺倒とならず，とりわけアジアの近隣諸国と友好親善の輪をつくっていきたい」との委員会方針を提起されました。委員会発足後，さっそく韓国美術教育学会と国際交流協定を締結し，学会相互交流活動を開始しました。その一方，茨城大学の向野康江先生のお世話で，上海の華東師範大学を訪問するなど，アジア地区との交流活動を中心に委員会活動を展開してきました。

また，二代目国際交流委員長となった宇都宮大学の山口喜雄先生はアジアとの国際交流を継続し，推進していくと共に，「国際交流情報・IRCN」を創刊されました。

この情報誌は，本年度前期・7 号が発刊されるまでになり，内容も，国際交流委員による報告に併せて，学会員から寄せられる世界各地の美術教育に関する情報を公開できるようになりました。

本年度以降の国際交流委員会の活動としては，これまで積み上げられてきた取り組みを引き継ぐと共に，今後ますます増していく国際交流に関する情報を提供したり，学会活動を充実させたりすることを目的として，以下のような活動を展開していくことを計画しています。

2　IRCN を通した国際情報の充実

学会員の中には，海外留学・海外調査をされたり，海外学会の参加・海外学会誌への投稿をされたりするなど，海外との接点をもたれ活躍されている会員も多くおられます。

国際交流委員会では，このような国内はもとより海外でも活躍されている会員に，それらの研究取り組みを国際交流情報・IRCN」に紹介していただきたいと考えています。そして，海外における美術教育の状況や課題などを提供していただき，海外における美術教育情報を，学会員同士でひろく共有していくことを企画いたします。今後，会員の皆様に IRCN への投稿を依頼したり，公募したりしていく予定ですので，よろしくお願いします。

3　韓国学会との学術的交流の充実

本学会は国際交流委員会発足当時より，韓国美術教育学会との学術交流を進めてきました。　この交流は，2007 年

度までの当初３年間は活発だったのですが，その後本年度まで「相互の学会口頭発表・学会誌投稿・共同研究ができていない」など活動が停滞しています。なお，学会誌への相互投稿の方法や規定については，これまで学会誌委員会にも検討していただいており，現在策定中です。

本年度以降は，これら課題に関して特に相互の学会員による「共同研究」の取り組みを積極的にすすめ，そこでの成果を相互の学会で発表（シンポジウムの企画提案も含む）したり，学会誌への投稿をしたりしながら，実質的な学的な充実を目指していきます。

国際交流の学術的充実を図っていくためには，共通の研究テーマを設定し，継続的な協力体制が必要と考え，このような提案としました。

## 運営委員会報告

**総務局長　相田隆司（東京学芸大学）**

平成 24 年６月 10 日に教大協全国美術部門・大学美術教育学会運営委員会が開催されましたのでその概要につき報告します。

日時：平成２４年６月１０日（日）13：00 ～ 17：00
場所：東京文化会館　小会議室２
出席：大嶋彰、西村俊夫、岩村伸一、山口喜雄、
　　新関伸也、藤江　充、山田一美、大泉義一、
　　芳賀正之、天形　健、安東恭一郎、佐藤聡史、
　　相田隆司　　（以上１３名）

＜審議・報告事項＞

1　新役員・新委員会
（1）平成 24 年度　部門・学会　役員・委員
2　事業計画等
（1）部門　平成 23 年度　事業報告
　　平成 24 年度　事業計画
（2）学会　平成 23 年度　事業報告
　　平成 24 年度　事業計画
（3）大会関連
3　予算等
（1）平成 23 年度　部門・学会　決算
（2）平成 24 年度　部門・学会　予算案
（3）全造沖縄大会関連
4　各種委員会等
（1）学会誌委員会
（2）国際交流委員会
（3）特別課題検討委員会
（4）附属学校委員会
5　その他
（1）国際芸術教育週間に関する依頼について
6　総務局・事務部より
（1）ホームページ関連
（2）事務部関連

以上

# 第 51 回　大学美術教育学会大分大会　大会日程

## （平成 24 年度　日本教育大学協会全国美術部門協議会・総会）

1. 日時：2012 年 10 月 19 日 ( 金 ) 大会前日諸会議、20 日 ( 土 )・21 日 ( 日 ) 全国大会及び総会ほか
2. 会場：大分大学　教育福祉科学部棟　〒 870-1192 大分県大分市大字旦野原 700 番地
   http://www.oita-u.ac.jp
3. 参加費：学会員・一般参加者　5,000 円、大学院生 3,000 円（現職院生は 5,000 円）、学生・留学生 1,500 円
4. 会場アクセス：JR 利用　大分駅―JR 豊肥本線―大分大学前駅―徒歩―大分大学（20 分）
   大分バス利用 「大分駅前」もしくは「トキハデパート前 1 番のりば」から、
   「大南団地・高江ニュータウン」「大分大学」行―「大分大学正門」、または「大分大学（構内）」下車（30 分）
   「戸次」「臼杵」「竹田」「佐伯」行き―「大分大学入口」下車（30 分）
5. 大会ブログ：http://oitaart.blogspot.jp/
6. 問い合わせ：冨田礼志　大分大学　TEL/FAX 097-554-7597、携帯 090-5288-2106、tomita@oita-u.ac.jp

## ＜大会日程等＞

**【大会前日の諸会議】　2012 年 10 月 19 日（金）　各委員会、役員会　教育福祉科学部棟 1F【会場は当日掲示】**

| | | |
|---|---|---|
| 13:30-14:00 | 拡大総務局会議【正副理事長・正副代表・総務局員・事務部員】 | |
| 14:00-14:50 | 全造連大学委員会【部門】<br>※全国大学造形美術教育連絡協議会<br>（年 1 回の美術部門全造連大学委員と全美協の懇談会） | 第 1 会議室 |
| 14:50-15:50<br>※審議延長は<br>17:50 まで可 | 国際交流委員会【学会】<br>学会誌委員会【学会】<br>附属学校委員会【部門】<br>特別課題検討委員会【部門】 | 第 2 会議室<br>地域交流室<br>改革推進室<br>201 号教室 |
| | （全美協　役員会）【私学】 | 201 号教室 |
| 15:40-15:50 | 拡大理事会受付【学会・部門共通】 | 第 1 会議室入口 |
| 15:50-17:00 | 拡大理事会【学会＋部門（共通審議事項を含む）】 | 第 1 会議室 |
| 17:00-17:50 | 美術部門協議役員会【部門】 | 第 1 会議室 |

**【大分大会第 1 日】2012 年 10 月 20 日（土）（教育福祉科学部棟）**

| | | |
|---|---|---|
| 09:30- | 部門受付 | 教育福祉科学部棟正面玄関 |
| 10:00-11:00 | 部門総会、協議会　　全美協総会 | 100 号教室、201 号教室 |
| | 大学美術教育学会受付 | 教育福祉科学部棟正面玄関 |
| 11:00-11:25 | 第 51 回大学美術教育学会全国大会開会式 | 100 号教室 |
| 11:30-11:57 | 口頭発表 | 203 号 ,204 号 ,303 号 ,304 号教室 |
| 12:00-13:00 | 昼休み　※学食、生協、コンビニをご利用下さい。 | 200 号教室開放 |
| 13:00-15:37 | 口頭発表　（14:00 ～ 14:10　休憩） | 203 号 ,204 号 ,303 号 ,304 号教室 |
| 16:00-17:30 | シンポジウム「地域から発信するアート」 | 100 号教室 |
| 17:30-19:00 | 懇親会場へ移動　送迎バスあり | |
| 19:00-21:00 | 懇親会 | レンブラントホテル大分 |

**【大分大会第 2 日】2012 年 10 月 21 日（日）（教育福祉科学部棟）**

| | | |
|---|---|---|
| 09:30- | 受付 | 教育福祉科学部棟正面玄関 |
| 10:00-11:57 | 口頭発表 | 202 号 ,203 号 ,204 号 ,303 号 ,304 号教室 |
| 12:00-13:00 | 昼休み　※学食、コンビニ（学外）をご利用下さい。 | 200 号教室開放 |
| 13:00-13:25 | ポスター発表 | 100 号教室 |
| 13:30-14:57 | 口頭発表 | 203 号 ,204 号 ,303 号 ,304 号教室 |
| 15:10-15:40 | 大学美術教育学会総会 | 100 号教室 |
| 15:50- | 引き継ぎ（大会運営理事　H24 大分大学・H25 京都教育大学） | 100 号教室 |

※大会期間中、別府市で「別府現代芸術フェスティバル 2012『混浴温泉世界』」が開催中です（10 月 6 日～ 12 月 2 日）。本大会の一環として「混浴温泉世界」実行委員会との共催によるエクスカーション（大会シンポジウムのパネリスト・山出淳也氏の案内による徒歩見学会）を 21 日夜に実施します。詳細は、大会ブログでお知らせします。

## 第１日
## 10月20日(土)

### ■口頭発表　　教育福祉科学部棟　口頭発表 20 分、質疑応答 7 分、移動 3 分

（注意）１. 発表の準備は、２階２００号 教室にて行ってください。
２. 研究発表の進行は次の通りです。一鈴（15 分経過）、二鈴（20 分経過）、質疑応答（７分）
３. 発表に使用するＰＣは各自持ち込んでください。　Mac はＶＧＡ変換アダプターが必要です。

| | 第１会場　202 教室 | 第２会場　203 教室（造形の考察） | 第３会場　204教室（特別課題） | 第４会場　303 教室（産学・官学連携） | 第５会場　304 教室（教員養成 -1） |
|---|---|---|---|---|---|
| 11:30-11:57 ① | | 造形行為の生成過程の記述可能性について<br>松本健義（上越教育大学） | 平成24年度特別課題検討委員会報告<br>高須賀昌志（埼玉大学）<br>石井壽郎（東京学芸大学） | 産学・官学連携におけるコンテンツデザイン提案からの学び<br>畑中朋子（拓殖大学） | 保育士・幼稚園教諭を目指す大学生のための授業の試みについて<br>森高光広（植草学園大学） |
| 12:00-13:00 | 昼休み | | | | |
| | | | （地域と教材） | （鑑賞教育 -1） | |
| 13:00-13:27 ② | | 鉄の造形思考<br>阿部　守（福岡教育大学） | 大分県における鑑賞教育の実践研究―校種を超えて参加する授業検証会の意義について―<br>木村典之（大分県企画振興部県立美術館推進局） | 鑑賞教育における「美的特性感受法」の意義と効果～題材「作品のまなざしを捉えよう」～を事例として」<br>立原慶一（宮城教育大学） | 教員養成大学・学部の絵画教育における省察的実践についての研究Ⅱ<br>小澤基弘（埼玉大学）<br>八桁 健（埼玉大学大学院） |
| 13:30-13:57 ③ | | 紙による立体造形の可能性についての研究<br>山村朱加（福岡教育大学大学院） | 図画工作科における地域性を視野に入れた教材化<br>蝦名敦子（弘前大学） | 論理的思考を目的とする鑑賞教育の構造の研究<br>菖蒲澤　侑（東京学芸大学大学院連合） | 実践的な教育力養成のための研修システムの構築<br>降籏　孝（山形大学） |
| 14:00-14:10 | 休　憩 | | | | |
| | | （子どもの造形） | （工作・工芸） | （全国学生会議） | （表現する場） |
| 14:10-14:37 ④ | | 子どもの絵の分析－第一次分析としての分割分析の効果－<br>村田利裕（京都教育大学） | 手を働かせる活動を重視した図画工作科指導をめざして<br>梅山仁美（大阪市立大隅西小学校） | 【全国学生会議】<br>テーマ<br>「私たちは大学で美術教育の何を学んでいるのか」 | 協同的な学び論の検討Ⅱ―学習指導要領「共同製作」の歴史的変遷から―<br>手塚千尋（兵庫教育大学大学院） |
| 14:40-15:07 ⑤ | | 子どもはなぜ複数の太陽をえがくのか<br>高田定明（大阪青山短期大学） | 現代における工作・工芸の教育的意義―日英の比較教育研究から<br>佐藤真帆(長岡造形大学) | | 小学校教諭と大学とが協同する造形表現活動の実践<br>川原﨑知洋（静岡大学） |
| 15:10-15:37 ⑥ | | どもの計画で始まる造形遊び実践― 4歳から10歳による異年齢活動に着目して ―<br>永渕泰一郎（畿央大学） | 工作・工芸教育における小刀の取り扱いに関する考察Ⅱ<br>福井一真（愛媛大学） | | 子どもの学びの場としての「ものつくりの場」に関する研究<br>吉川暢子（筑紫女学園大学短期大学部） |
| 15:40-16:00 | 休　憩 | | | | |
| 16:00-17:30 | **●シンポジウム「地域から発信するアート」**<br>パネリスト：山出淳也氏（BEPPU PROJECT 代表理事、「混浴温泉世界 2012」総合プロデューサー）<br>加藤康彦氏（大分県企画振興部県立美術館推進局主幹）<br>山木朝彦氏（鳴門教育大学教授） | | | | 100 号教室 |
| 17:30 以降 | 送迎バスにて懇親会場へ移動してください。 大分大学→レンブラントホテル大分 | | | | |
| 19:00-21:00 | **懇親会**　（事前にお申込いただけますようご協力お願いします）参加費：5,000 円 | | | | レンブラントホテル大分<br>097-545-1040 |

大会ブログ：http://oitaart.blogspot.jp/

## 第２日
## 10月21日(日)

### ■口頭発表　教育福祉科学部棟　口頭発表 20 分、質疑応答 7 分、移動 3 分

（注意）１. 発表の準備は、２Ｆ２００号 教室にて行ってください。
２. 研究発表の進行は次の通りです。一鈴（15 分経過）、二鈴（20 分経過）、質疑応答（７分）
３. 発表に使用するＰＣは各自持ち込んでください。　Mac はＶＧＡ変換アダプターが必要です。

| | 第 1 会場　202 教室（美術史） | 第 2 会場　203 教室（教員養成 -2） | 第 3 会場　204教室（美術科教育） | 第 4 会場　303 教室（教材開発） | 第 5 会場　304 教室（海外と日本） |
|---|---|---|---|---|---|
| 10:00-10:27 ⑦ | 福永晴帆研究－客観的評価の確立と教育学研究への展開－<br>松久公嗣（福岡教育大学） | 学生と教員の協働的な学びの場を創出する「低学年図画工作」の授業構造－出前授業型プロジェクトの実践と検証－<br>濱口由美（福井大学） | 美術科学習における目標設定と動機付けについて—自己調整学習における研究と実践からからの分析<br>春野修二（福岡教育大学附属小倉中学校） | デジタル技術を活用した色彩構成教育の試みについて II～空間展開と共同制作の可能性及びその教育効果について～<br>町田由徳（岡崎女子短期大学） | ユネスコを中心とした芸術教育を巡る国際的動向について<br>福本謹一（兵庫教育大学） |
| 10:30-10:57 ⑧ | 直筆覚書にみる福永晴帆の人物像とその背景<br>青木朋子（福岡教育大学大学院） | 「平面授業構成研究」について－島根大学教育学部における「教科内容構成研究」の取り組みをもとに－<br>新井知生（島根大学） | 中学校美術科における検討課題：教科経営の視点から<br>花輪大輔（北海道教育大学札幌校） | 美術科教材としての「写真」に関する一考察　映像メディアとこれまでの美術教育とをつなぐ役割として<br>西園政史（兵庫教育大学大学院） | スペインの初等美術教育の研究<br>藤井康子（大分大学） |
| 11:00-11:27 ⑨ | 高木背水再考<br>伊勢田理沙（佐賀大学大学院） | 図画工作科の授業研究システムの成果と課題—公立小学校における事例分析を中心に－<br>隅　敦（富山大学） | イメージ力を育てる教材研究　美術と算数科の連携について<br>沖谷真由子（金沢大学大学院） | 祈る身体　パフォーマンスアートによる表現の研究　My body with prayer<br>小笠原　萌（福岡教育大学大学院） | デジタル美術教科書利活用にむけた現状と課題1・韓国編<br>Kim Jeonghyo（韓国教育課程評価院）<br>安東恭一郎（香川大学） |
| 11:30-11:57 ⑩ | メキシコ・タスコにおける現地調査による「北川民次」研究の再検討<br>天形　健（福島大学）<br>新関伸也（滋賀大学） | 実技教育支援コーディネーターの養成と配置効果の科学的検証<br>加藤隆之（福岡教育大学）<br>松久公嗣（福岡教育大学） | 造形ワークショップにおける「楽しい」の一考察<br>吉本美晴（上越教育大学大学院） | 病院内学級での造形活動における教具（補助具）の試作 I<br>高橋智子（静岡大学） | デジタル美術教科書利活用にむけた現状と課題2・日本編<br>安東恭一郎（香川大学）<br>Kim Jeonghyo（韓国教育課程評価院） |
| 12:00-13:00 | 昼休み | | | | |
| 13:00-13:25 | ポスター発表　100 号教室 | | | | |
| | | （幼児教育） | （学校での活動） | （鑑賞教育 -2） | （自然と素材） |
| 13:30-13:57 ⑪ | | 造形の授業を通した造形表現活動に対する保育系学生の意識の変化－ 自己認識と感情曲線による分析 －<br>畠山智宏（清和大学短期大学部） | 小学校の朝活動における描画(スケッチ)が創造性育成に及ぼす効果についての研究 I<br>八桁 健（埼玉大学大学院） | ワークシートを活用した美術教育鑑賞プログラムについて—言語活動と鑑賞活動をつなぐワークシート開発—<br>渡邉美香（大阪教育大学） | 自然素材を用いた絵具作りと描画に関する研究<br>古川由子(佐賀大学大学院)<br>前村　晃(佐賀大学)<br>田中嘉生(佐賀大学)<br>田中右紀(佐賀大学)<br>栗山裕至(佐賀大学)<br>小木曽　誠(佐賀大学)<br>石崎誠和(佐賀大学) |
| 14:00-14:27 ⑫ | | 幼児期の立体造形表現についての一考察<br>三浦　乃（鹿児島大学大学院） | 小学生を対象とした文字デザインの実習<br>山本政幸（岐阜大学） | 美的経験に着目した鑑賞授業の提案<br>田村乙海（滋賀大学大学院） | 自然素材における同化<br>清川梨穂（福岡教育大学大学院） |
| 14:30-14:57 ⑬ | | 幼稚園・保育園との連携プロジェクト実践<br>加藤可奈衛（大阪教育大学）<br>井野よしこ（コイニア福祉会旭丘まぶね保育園） | 小学校の中庭をアート空間へ　弘前大学教育学部附属小学校での試み<br>塚本悦雄（弘前大学） | 学校教育における工芸の鑑賞について<br>白木ゆう美（上越教育大学大学院） | 土から生成する制作と語りの授業実践開発— 震災と復興の間で —<br>望月未希（東京学芸大学大学院）<br>相澤彩乃（東京学芸大学大学院） |
| 15:10-15:40 | 大学美術教育学会総会 | | | | 100 号教室 |

## ■ポスター発表　　教育福祉科学部棟　100 号教室

**10 月 21 日（日）13:00 ～ 13:25　ポスターは終日展示します。**

| 発表題目 | 発表者 | 所属 |
|---|---|---|
| 地域社会における子どもの造形活動－集団的な活動による子ども同士のつながり合いに着目して－ | 武田信吾 | 常磐会学園大学 |
| 教員養成課程における「学習材」の提案 | 結城孝雄 | 東京家政大学 |
| アートプロジェクトの実践 | 押元信幸<br>手嶋尚人 | 東京家政大学<br>東京家政大学 |
| 地域の自然と交わる子どもたちの造形活動 | 笹原浩仁 | 行橋市立今元小学校 |
| 土粘土を使ったプロジェクト型保育における幼児の「気付き」についての考察 | 淺野卓司 | 桜花学園大学 |
| 表現に於ける死生観、存在の在り方と「痛み」の共有について（仮題） | 見藤素子 | 大分大学大学院 |
| 協同的な学び論の検討Ⅱ―学習指導要領「共同製作」の歴史的変遷から― | 丁子かおる | 福岡教育大学 |
| 初等教育における造形表現力育成のための実践的研究Ⅰ～「図画工作」、「図画工作科指導法」の授業におけるポートフォリオ作成に見る成果と課題～ | 五十嵐史帆<br>松尾大介<br>安部　泰<br>伊藤将和 | 上越教育大学<br>上越教育大学<br>上越教育大学<br>上越教育大学 |
| 模写からの学び－岡山県立聾学校の子どもの絵を模写する行為から－ | 上浦千津子 | 中国学園大学 |

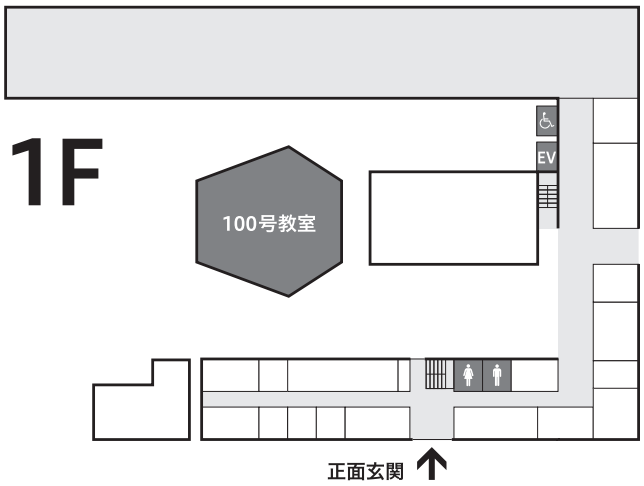
## ■ポスター展示　　教育福祉科学部棟　100 号教室　　終日ポスター展示

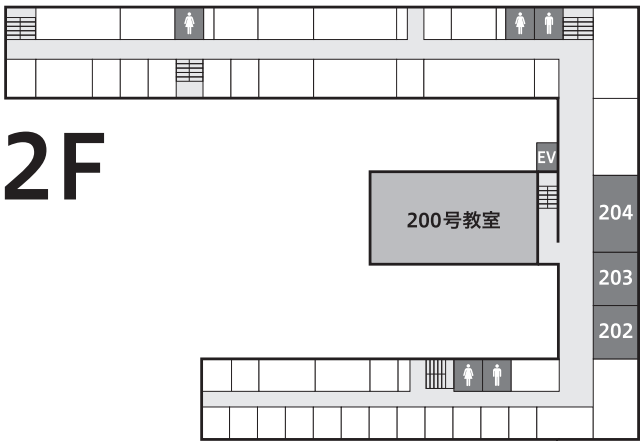
| 発表題目 | 氏名 | 所属 |
|---|---|---|
| AIE を通した連携から構成する造形ワークショップデザイン | 渡辺一洋 | 育英短期大学 |
| 大学教養教育における ESD としての地域連携アートプロジェクト 2011 の実践報告 | 加藤　修 | 千葉大学 |
| 身体と精神における素材研究の二面性 | 伊東一誉 | 千葉大学大学院 |
| 教材開発から量産製品化へ『色相環の絵の具』ブランディングの実例 | 渡辺邦夫 | 横浜国立大学 |

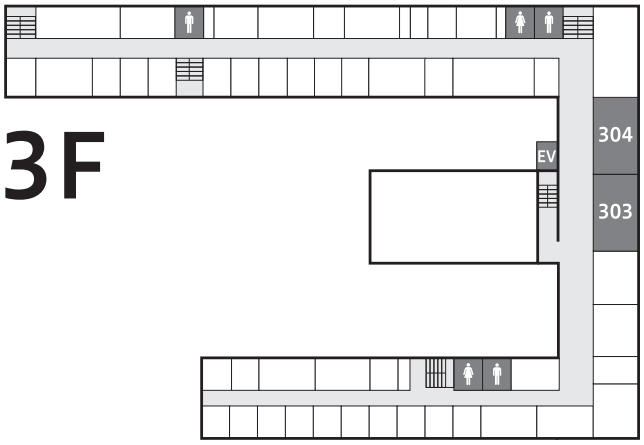
## ■大分大学構内地図

大会当日の緊急連絡先：090-2560-5998　事務部長　佐藤聡史

## ■教室配置図




## ■ JR　時刻表

**大分駅 発　豊後竹田方面**
**JR豊肥本線（上り）土・休日**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 7 | 04 竹 | 26 三 | 47 中 |
| 8 | ~~08[特九]~~ | 31 竹 | 51 中 |
| 9 | 12 宮 | 31 中 | 52 中 |
| 10 | 13 竹 | 52 竹 | |
| 11 | 36 中 | ~~56[特九]~~ | |
| 12 | 13 竹 | 35 中 | 58 竹 |
| 13 | 22 三 | 45 中 | |
| 14 | 30 竹 | | |
| 15 | ~~02[特九]~~ | 16 竹 | 45 三 |
| 16 | 03 三 | 25 中 | 51 竹 |
| 17 | 09 中 | 29 三 | |

[特九]…特急 ※大分大学前駅には止まりません。
竹…豊後竹田，三…三重町，中…中判田，宮…宮地

**大分大学前駅 発　大分方面**
**JR豊肥本線（下り）土・休日**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10 | 14 | 35 | 51 |
| 11 | 35 | 56 | |
| 12 | 38 | 58 | |
| 13 | 43 | | |
| 14 | 05 | 30 | |
| 15 | 02 | 48 | |
| 16 | 24 | 51 | |
| 17 | 29 | | |
| 18 | 01 | 21 | 42 |
| 19 | 00 | 36 | |
| 20 | 00 | 26 | 48 |

2012/8/20現在

大会ブログ：http://oitaart.blogspot.jp

## 新ホームページの開設

総務局理事　学会総務部長　芳賀正之

平成 20 年度の高知大会に併せて、学会のホームページを立ち上げ、およそ四年が経過しました。「愛知大会」、「東京大会」での新たな試みや通信や会報の充実、学会と部門の合同によるフォーラムの開催など情報の必要性が増してきています。さらに、事務部と連携した円滑な事務処理が必要なことから、学会のホームページの内容を見直し、新たに作成することになりました。

平成24年の春から作業に取りかかり、まずはトップページと基本的なページを作り直しました。このあと、徐々に各ページの内容を充実させていく予定です。以下、トップページ項目です。

学会概要／活動計画・報告／全国大会・研究発表会／研究会の案内／イベント情報／国際交流情報／大学美術教育学会誌／学会通信・会報／図書・出版情報／各種申込み・お問い合わせ／論文投稿案内／会員の皆様へ

今年度から、新規入会と変更届けの手続きが、ホームページ上で行えるようになりました。また、投稿論文の登録、さらに、全国大会の参加申し込み、発表申込みもできるようになり、今後は様々な手続きを、この新ホームページから行えるようにしていきたいと考えています。

「学会概要」のページでは、会則の最新のものを載せております。「全国大会・研究発表会」のページでは、「高知大会」から昨年の「宮城大会」までの記録を載せる予定です。「大学美術教育学会誌」のページでは可能な限り、これまでの学会誌の目次（研究論文題目等）を載せる予定です。また、今後は学会誌の見直しと合わせて、研究題目以外の内容を載せることも考えています。学会通信・会報で知らせている情報について、特に必要な内容をホームページ上でも紹介するなど、会員の皆様にとって便利なサイトづくりをめざしていきたいです。

http://saeu.jp/

大学美術教育学会 HP

## 事務連絡

事務部長　佐藤聡史

### ■年会費関係

平成 24 年度年会費及び前年までの未納分について、納入が済んでおられない方は速やかに納入をお願いいたします。前年度分（平成 23 年度）が未納となっている方が少なくありません。

**年額　５，０００円**

未納分は本年度分と合算し一括納入して下さい。

振込先：
郵便振替口座（ゆうちょ）　郵便局で振込する場合
００５２０―２―６００６５
大学美術教育学会

他行より振込される場合
ゆうちょ銀行　０５９店　当座　００６００６５
大学美術教育学会

### ■情報の変更、退会は速やかにお願いします。

退職、異動、転職による会員情報の変更、または退会についてのご連絡は、速やかにいただけますようお願いいたします。

退会については、当該年度の会費納入日（原則６月 30 日）までに、ホームページのフォームからご連絡をお願いいたします。7 月以降は原則として当該年度会費を納入いただきます。

### ■平成 24 年 9 月 1 日現在の会員数（名簿上の人数）

個人会員　392 名　大学会員　317 名　　合計　709 名

### ■お願い

事務部では約 700 名の会員の方に関する大学美術教育学会事務を取扱いします。即時対応ができないこともございますので、ご理解、ご了承をお願いいたします。

【総務局】
・相田隆司（東京学芸大学）：「第 27 号」担当
・芳賀正之 ( 静岡大学）ホームページ担当
・大泉義一 ( 横浜国立大学）
・大成哲雄（聖徳大学）
・小泉　薫 ( お茶の水女子大附属中学校）
・竹内とも子 ( 千代田区立九段小学校 )
・新野貴則（山梨大学）
・山田一美（東京学芸大学 )